

WORLD TOPICS

ISO/TC225 WG2 第6回国際会議 参加報告 (兼 ISO/TC225 第6回全体会議)

ISO20252 認証協議会 運営委員長 一ノ瀬 裕幸
同 委 員 三木 康夫

1. 国際会議の概要

アクセスパネルの規格化に関する検討を重ねてきた WG2 は、第6回国際会議をシドニーで開催し、続けて TC225 の全体会議が行われた。

日 時： 2008年5月19日(月)～20日(火) 午前
会議名： ISO/TC225 WG2 第6回国際会議
参加者： WG2 メンバー (8カ国+1 オブザーバー、計17名参加)
Convenor: Mr. Erich Wiegand (ドイツ ADM 代表)
Secretary: Dr. Holger Muehlbauer (DIN 事務局)
参加国： オーストラリア(2)、日本(一ノ瀬、三木：2)、イギリス(1)、カナダ(2)、
メキシコ(1)、南アフリカ(2)、ドイツ(WG2 議長国：4)、中国(2)、
ESOMAR (オブザーバー：1)
(続けて)
日 時： 2008年5月20日(火) 午後
会議名： ISO/TC225 第6回全体会議
参加者： TC225 メンバー (9カ国+1 オブザーバー、計18名=電話会議で事務局が参加)
Chairman: Mr. Erich Wiegand (代理：ドイツ ADM 代表)
Secretary: Ms. Irene Rodriguez Gayo (AENOR 事務局) =電話会議参加
場 所： (いずれも) シドニー Standards Australia 会議室

ISO/TC225/WG2 - 2008-05-20, Sydney/AUSTRALIA



今回はオーストラリアでの開催ということもあり、参加国数・人数ともにやや少なめであった（昨年4月の東京会議も同様）。各大陸での持ち回り開催が国際会議らしさではあるものの、やはり地理的な制約は否めない。また、今回は中国の代表（中国標準化研究院「CNIS」という政府機関の職員）が初めて参加してきたことが特筆される。

2. 討議／決定事項

- ① WG2として、前回会議で採択されたISO26362のDIS（Draft International Standard）に対する修正を加え、FDIS（Final DIS）案としてTC225に提出することを決議した。
- ② 引き続き開催されたTC225では、WG2のFDIS案を承認し、ISO中央事務局に提出することを決議した。今後事務的な調整を経て、9月以降に国際投票にかけられることとなる。
- ③ 正式発行期日については、2009年の4月を目標とすることに修正された。

3. 今後の作業スケジュール等

- ① WG2としてはすべての役割を終え、今後はISO事務局に処理を委ねる。
- ② 次回のTC225の会合は、2010年の4～5月を目途にカナダで開催される予定。
※ TC225の会合とは別に、ISO20252/ISO26362の普及活動のため、国際的な市場調査業界団体（ESOMARまたはEFAMRO）が独自の取り組みを行う可能性がある。

4. 会議の状況と関連情報

(1) ISO20252：イギリスとオーストラリアで第三者認証が進捗

- ・ 今回の会議に参加したイギリスとオーストラリアの代表から、第三者認証に関わる先行事例を聞くことができた。
まず、イギリスでは業界団体（MRS）が一定規模以上の売上高を有する会員社にISO9000と20252の取得を義務付けているが、そのすべてである80社がすでにBS7911（同国における市場調査品質管理の国家規格）からISO20252への移行を終えたとのことであった。さすがはこの分野のトップランナーである。
また、イギリスにおける認定機関はUKAS、認証審査は3機関が対応している。認証取得会社はいずれもそれら機関の認証マークを対外的に使用しているが、今のところ会社の発行物のみで、今回の代表は「調査報告書にマークは付していないのでは？」と述べていた。業界団体として新たなマークを制定する予定もない、とのことであった。
- ・ 次に、オーストラリアの代表から、もともと同国の市場調査品質管理の国家規格であったAS4752の認証取得社が27社あり、ここからISO20252への切り替えを進めているとのことで、すでに17社が移行し、残り10社も準備中という話を聞くことができた。こちらも、イギリス連邦の国だけのことはある。ただし、同国の業界団体であるAMSROには234の加盟会員社（個人会員は除く）があり、残りの企業への普及活動はこれからになるそうである。
なお、オーストラリアでは2つの審査・認証機関に対応を依頼しているが、やはり同機関の認証マークをそのまま使用し、かつ会社の発行物から調査報告書まで、あらゆる媒体にそれらのマークを印刷することができる、とのことであった（別添資料参照）。

- ・ イギリスもオーストラリアも、ISO20252に先行する国家規格があったところからのスタートであり、20252を従来の枠組みに乗せ代えただけのため、ほとんど「苦労話」が聞けなかったことは残念であった。先行事例として参考にはなると思われるが、日本を含む他国とはずいぶん背景事情が違うと言わざるを得ない。

(2) ISO26362： 順当に FDIS に着地

- ・ 今回のWG2で議論された修正提案は、表現や用語定義の精緻化にかかわるものが多く、その他の提案については、ほとんどが今までの会議で何度も議論されてきたことの繰り返しに近い感があった。最終盤ならではの討議だったということでもあろう。
- ・ 結果的に、重要な変更につながるようなポイントはなく、順当に採択を終えたと理解してよいと思われる。
- ・ なお、今回は地理的な問題もあって、別途文書意見を出していたフランスやアメリカなどからは代表の参加がかなわなかったが、やはり文書だけでは説得力に欠け、それらの修正提案はほとんどがボツとなった。ある意味当然のことではあるが、国際会議の厳しさを垣間見た感がある。
- ・ 今後、決議されたFDISはISO事務局内部の調整を経て国際投票にかけられることとなるが、ISO26362としての成立は2009年春ごろとアナウンスされたところから、日本では遅くない時期にISO20252とセットで認証を取得できるように準備することを考えていかなければならないであろう。
- ・ また、次回のTC225が2010年春の開催であることから、当然その時点ではISO20252の改訂だけではなく、実質的な追加規格であるISO26362との合体検討が議題にのぼるものと思われる。

(3) 中国の登場

- ・ 今回、中国の代表が初めて参加してきたことは、大きなトピックスとして取り上げてよいと思われる。派遣元の「中国標準化研究院 (CNIS)」という政府機関（日本ではJISにあたる）では、何と300人ものスタッフが働いていて、博士号保有者も多数とのこと。
中国大陸として技術や規格の標準化は大きな課題として捉えられており、市場調査に限らず、先進国と比べて遅れている産業分野を、ISOをはじめとする標準規格に早期に近づけることで産業の発展育成を図ろうとしているらしい。
- ・ また、日本と中国、韓国の3協会の交流状況を紹介したところ、「今後、中国の調査会社を啓蒙していくにあたって、ぜひ日本 (JMRA)の力を借りたい」とのことであった。
おそらく中国では、ISO20252の認証問題はまだほとんど認知されていないと思われるが、政府機関が動き出すと一気に進む可能性がある。早く日本での経験を積み上げないと、この分野では先を越される恐れすらあると思われる。

(4) 南アフリカからの追加提案

- ・ 南アフリカ共和国の代表から、社会調査分野における追加規格の制定を提起することの実現可能性が打診されたが、市場調査業界が主体的に議論をリードできないであろうことから、

今回の討議の中ではかなり否定的に受け止められた。

(5) 日本における今後の進め方

- ・ ISO26362 (アクセスパネル) のFDISが成立したことを受け、ISO20252認証協議会では将来的にISO20252とのセット認証を展望し、今後の検討を進めていく必要がある。
今回の修正部分については追加の翻訳作業を行い、日本語版の完成を急ぐ。
- ・ ISO 202052の普及対策としては、日本の状況にかみ合う海外事例が乏しいことから、独自のパイロット認証の実施を急ぎ、修正を重ねながら認証体制の構築を進めたい。

以 上